

京都御池中学校生徒・保護者・けやき委員・教職員アンケート 結果と考察

平成31年3月7日
けやきプロジェクト理事会

〔アンケート調査実施時期等について〕

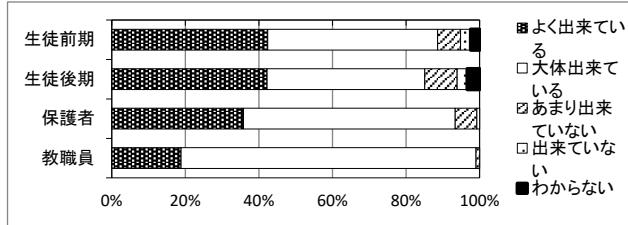
生徒アンケート 前期：7月 後期：12月 保護者アンケート 12月 けやき委員アンケート 2月 教職員アンケート 1月

〔アンケート結果の検証について〕

1月教職員研修、2月けやきプロジェクト・学校評価委員会で検証を行い、さらに3月のけやきプロジェクト理事会（学校運営協議会）で検証・確認を行った。

A：生徒（前期・後期）、保護者、教職員アンケート結果の比較

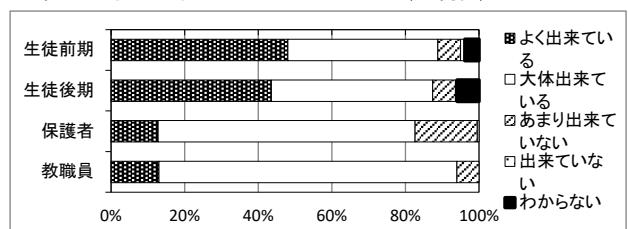
1. 楽しく学校に通うこと（実現度）



年間を通して「出来ている」が全体として8割超であった。いろいろな活動に取り組む中で「居場所」が築かれてきていると考えられる。「出来ていない」も若干減少していることもその裏付けと考える。今後も、人間関係や学習状況など留意して細やかな配慮をしていく必要がある。

教職員は、限られた条件の学校の活動で、企画・準備とともに工夫もしながら、生徒が日々を送る環境を整備していくたいと考える。

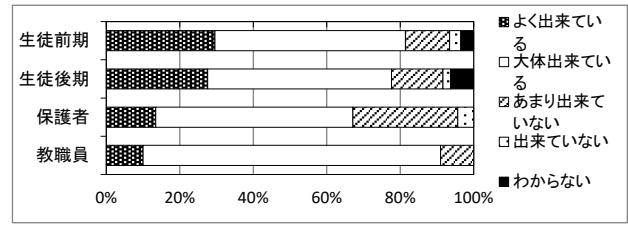
2. ひとりひとりが大切にされること（実現度）



生徒・保護者も教職員もおおむね8割は「出来ている」と回答している。生徒の回答で、後期もほぼ変化がなかったのは、日々の関わりの中で実感していると考えられる。保護者は「（あまり）出来ていない」という回答が2割近くある。生徒の頑張る様子や教職員との取組などを一層わかりやすく伝えていく必要がある。

生徒との日々の関わり、保護者との情報共有を図ることで、生徒はもちろん保護者にも「大切にされている」と伝わるような関わりを構築していくたい。

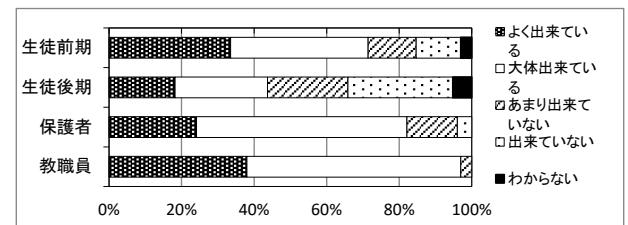
3. 学校の授業で学力がつくこと（実現度）



学校教育全体の中でも期待が高い部分である。実現度について保護者の回答は「あまり出来ていない」が3割近くを占めている。学力ニテスト点ではないことも含めて、生徒の学習の状況を伝える参観や説明会・懇談会や学校の取組等を活用し、学校の取組を理解していただく。

また、教職員は、この結果を受けて、さらに学習指導の充実・授業改善にむけた日々の実践とともに研修などでの研鑽が望まれる。

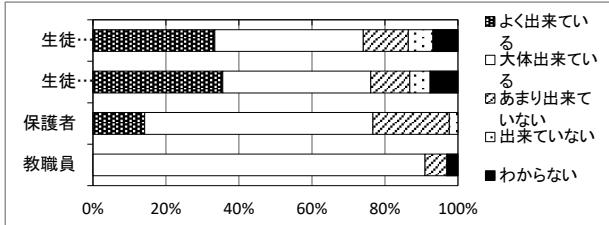
4. テスト前に土曜学習会や放課後学習会を行うこと（実現度）



前期から後期にかけて、生徒の回答で「出来ている」は7割から4割に減少した。通塾率も上昇したこともあるが、学習会そのものが必要だと感じさせる必要がある。保護者においては、今後も学習会の案内などで周知していくことが必要だ。

教職員は、学年体制やけやき事業として行っていることが、9割程度の回答に結びついているようだ。

5. 学校は相談しやすい雰囲気があること(実現度)

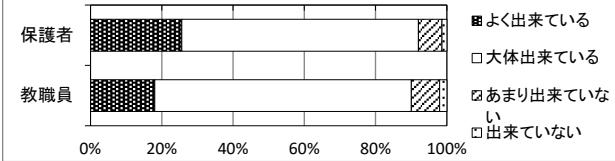


全体として「出来ている」が7割程度で生徒後期に伸びが見られた。学級・学年また全校での取組を通して教員と生徒が話したり、進路に向けて相談したりする機会が持たれたと思われる。

教職員の回答で、「あまり出来ていない」が1割弱あるのは、一人ひとりと向き合ってゆっくりと時間を取って話す余裕のなさを感じているところかもしれない。

B : 保護者、教職員アンケート結果の比較

1. 保護者、地域、学校が一体になった教育活動の推進（実現度）

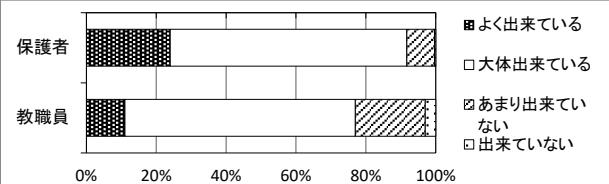


保護者の回答は1「保護者、地域、学校が一体になった教育活動の推進」2「小中一貫教育が着実に進められている」について、ともに「できている」が9割近くで、本校の学校教育活動の柱をなす取組であるけやきプロジェクトや小中一貫教育などに保護者から一定のご理解をいただいていることがうかがえる。

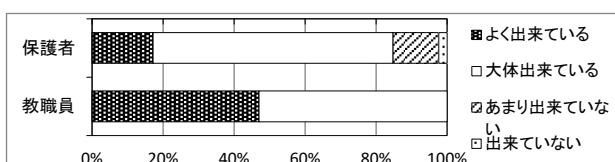
反面、教職員の回答では特に2について「あまり出来ていない」が2割強近くある。小中一貫教育に実際に向き合う教職員が抱える課題を共通理解しない、改善を図ることが迫られている。OGGTの取り組みを通じて教職員が、取組のどこに課題があるのかを探りながら、学力向上とともに生徒の心身の成長にもつながる活動をめざしていきたい。

「学校の様子がわかる」については、学校により・日々更新されるホームページをはじめ、学級通信など多くの発信を行っているので、教職員の実現度は高いものになっている。さらに発信の工夫・深化を図り、学校の活動への協力・参加を進めるようにしたい。

2. 小中一貫教育が着実に進められている（実現度）



3. 学校からの情報などを通して、学校の様子がわかる（実現度）



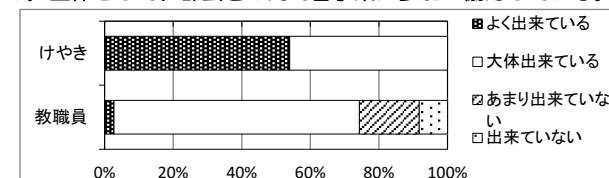
けやきプロジェクトの各事業は、各部会が企画・運営にあたっており、所属する部会の中で検討し、連絡調整・分担や準備などを行い活動している。

このようなら、1については、けやきプロジェクト全体会での呼びかけ等もあり、けやき委員の他の部会の事業への参加・協力は「出来ている」がほぼ10割に達している。教職員は7割強である。教職員もやりくりをしながら参加をしているが、所属しない部会の事業への参加は日程的にも難しい面があるが、年間事業計画を活用して内容や時期の周知を図り協力・参加できる事業を明確にしていきたい。

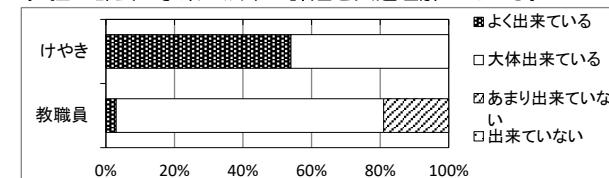
また、2について、「担当部会の事業」についてけやき委員の方々にしっかりと共通理解ができている。教職員ともに2割ほど見られる。教職員側の共通理解が深められる取組（各けやきの取り組みについての打ち合わせなど）を進めていく体制づくりの強化を進めていく。

C : けやき委員、教職員アンケート結果の比較

1. 全体として、部会をこえて各事業に参加・協力している。



2. 担当部会の事業の成果と課題を共通理解している。



D : まとめ

生徒アンケート・保護者アンケート・けやき委員アンケートの結果全体として、「出来ている」という回答項目は多く、おおむね「信頼される学校づくり」が進められていると考えられます。

教職員アンケートの結果は、開校以来進められてきた多様な取組について、十分に共通理解されたものになっているか、意欲と意識をもって臨まれているか、と問い合わせ直す必要を感じさせるものとなっています。改善・修正が重ねられてきた多くの活動は振り返りがあってこそですが、具体的にどう改善するのかなど検討し、教育活動を進めていくことが肝要と考えています。

今後も保護者・地域の皆様方からご意見をいただき、学校・家庭・地域が一体となってつくりあげる学校教育活動の推進をめざしたいと考えております。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。